

## 在宅医療における病院の役割

小川 聡子

東京都病院協会 常任理事

### チーム医療で行う入退院支援

地域医療における病院の役割は、患者さんに入院医療が必要になったとき（患者さんを支えている方々が、入院が必要と判断した場合も含め）に、受け入れをすることです。

例えば、在宅医療を受けておられる患者さん

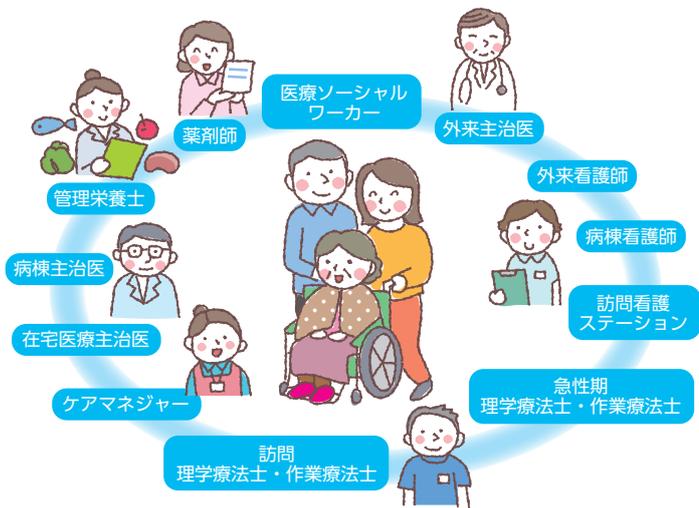


図 チームで共有して患者さんの入退院を支援

さんが尿路感染症を起したら、まずは自宅で在宅医療主治医が、内服薬の処方や点滴の投与を行います。それだけでは回復が難しい場合に、病院へ入院していただきます（急性期医療）。

このように、患者さんが「時々入院、ほぼ在宅」という医療を受けているなかで、ご自身の人生や病気のどの時期におられ、どのようにご自分の人生を全うされたいと考えておられるのかを、入院した病院の病棟主治医や、看護師、リハビリ職員、栄養士、薬剤師、医療ソーシャルワーカーがチームで共有し、ご本人やご家族、さらには患者さんを支えてきた地域の方々にお話を伺い、治療ゴールを設定する努力をします。これを「入退院支援」といいます。

### 在宅医療チームとの連携

患者さんが、ご自身の意思を表明できない場合もあります。そんなときは、われわれの方から、患者さんが普段どのように考えていたかを、ご家族に伺うことがあります。元氣なときから、皆さんで「生きる」ということについてお話をされておかれると、医療者に聞かれたときに「そういうえば○○○と言ってたね」などと、お話ができなくとも患者さんを主人公として、相談をすることができます。

はじめて病院に緊急入院される方や、治療のために入退院を繰り返す方（がんや老衰が進んだ方）の中で、退院はできなければ、外来通院は難しいのではないかと思われる場合もあります。そのようなときには、病院から地域の在宅医療チームに連絡をとり、患者さんを紹介してバトンを渡します。あるいは、役割分担をしながら（例えば、がんの専門的治療は病院が担当するなど）、一緒に連携して患者さんを支えることもあります。

### レスパイト入院

ご家族が少し介護に疲れて休みたいとき、一時的に期限を決めて患者さんに入院いただくこともあります。これを「レスパイト入院」といいます。病院の中でも、「地域包括ケア病棟」のある病院や療養病院（亜急性期、慢性期）がその役割を担います。

もう一つの役割として、病院が訪問診療、訪問看護、訪問リハビリを行う地域密着型病院も最近増えてきています（在宅療養支援病院）。病院のスタッフが在宅医療に取り組むことで、病院に入院された患者さんが、地域で生活されているときをイメージしやすく、入院医療により影響を及ぼしています。

このように、病院では、在宅医療と関わることで、どんどん増えてきていて、私たち病院職員も日々患者さんやご家族、地域の皆様から学び、成長させていただいています。